1. 若葉区利用状況中間報告(1月末時点)

若葉区内8館の総利用人数は令和元年度では137,906人で前年度に比べ2,064人、率にして約1.5%の減少となっております。

延べ利用回数も12,589回で、前年度と比較しまして約420回、率にして約3.2%の減少となっております。

公民館毎に令和元年度と平成30年度を比較してみましても千城台・みつわ台・若松公民館の3館が前年度を上回っておりますが、他の5館は残念ながら減少しています。

公民館全体の利用者減少は単年度の傾向ではなくここ数年間の継続した傾向です。

その主な原因としては利用者の高齢化によるサークル団体の減少や若年層の公民館離れや特に成人男性の利用が少ない事は各公民館も認識しています。

今後は若年層や成人男性層を対象とした主催講座などを増やす様に努めて参ります。

また、併せて館内の展示・掲示物にも工夫し気楽に立ち寄れる公民館を目指してゆきます。

sei

2. 令和2年度公民館年度運営方針・事業計画重点項目等一覧

∠.	令和2年度公民館年度運営方針・事業計画重点項目等一覧			
	公民館名	令和2年度運営方針	令和2年度事業計画 重点項目・特色	前年度からの改善点
1	千城台公民館	公民館の利用者増に努める中で、特に地域の 子ども達を集める取り組みに力を入れてい く。	成人教育の2講座を中止し新規3講座(成人 教育2少年教育1)を企画した。 前年度より少年教育講座を1事業増やした。	隣接している若葉図書館と連携を密にし講座 募集案内や公民館情報の周知を図る。 また、年度計画には無いが、特に子ども達に 人気のある調理系の少年教育講座を検討す る。
2	更科公民館	更科地区の特性を生かした事業展開を進める と共に、住民相互の連帯を図る。	豊かな自然環境を題材とする講座をより充実させる。 利用対象者の希望を基に講座内容を検討する。 今年度より実施されるアフタースクールとの連携を深める。	四季の自然を題材とする撮影講座数を3から4に増加させ、バードウォッチング講座の予備日を設定する。 高齢者のアンケートを基にシニアライフ講座の内容を決定する。 アフタースクールのテニススクール開催場所を提供する。
3	白井公民館	シニア層の利用増を図るとともに新規利用者の開拓を図る。	・少年教育の充実を図るため、夏休み・冬 休みに子どもの関心の高い講座を企画した。 ・従来の事業を充実させるとともに新しい 利用者を開拓するため新規事業を企画した。	・評判の良かった講座を充実させた。・利用者の希望を取り入れた。
4	加曽利公民館	子育て世代(主に小学生以下)を対象にファミリーでの利用促進を図る。	少年教育および家庭教育講座を前年度より 充実させる。 親子(小学生以下)で学べる講座をより多 く企画し、利用促進を図る。	不人気講座や定員不足で中止した講座を 廃止し、アンケート等で要望の多い講座 を企画・充実する。
5	大宮公民館	利用の少ない成人男性層の取り込みを図る。	成人教育で人気の高い健康問題や歴史講座 の充実を図る。ロビーキヤラリー・展示を 工夫して地域の交流を促進する。	需要の少ない講座を見直して、新規事業 を3事業に刷新をした。
6	みつわ台公民館	幅広い世代の方が気軽に集うことができる公 民館を目指す。 (重点項目) ・施設の環境整備の推進 ・利用率の低い男性層を狙った事業企画 ・子どもの居場所づくり	・上質な音楽に触れることのできる非日常 の空間を提供。 ・生涯学習むター所蔵資料を活用し費用負担 のない手作り事業を企画。 ・公民館で活動する人材を活用した事業を 企画。	地域のニーズに合わせ、追加講座を企画するなど、柔軟に対応。
7	若松公民館	公民館を中心とした仲間作り、地域作りを 狙った事業を実施し、自主的な学びの場に導 く。	将来の公民館利用者の発掘を目指し、中高生を対象とした「体幹トレーニング講座」を新設。サークルの創設・加入を目指した、全6回の連続講座の実施。ちば産学官連携ブラットフォーム等、地域団体と協力し、地域連携を強化する。引き続き、2ヶ月前広報に努める。	運営懇談会委員や参加者アンケートの要望を基に、運動系の講座や科学関連事業の内容を充実させる。(体操教室(全6回)、スライム作り)
8	桜木公民館	子育て世代や若年層向けの講座・行事を取り 入れ、成人層に加え幅広い年齢層の利用を促 進する。	少年・家庭教育ともに、講座の傾向を「物づくりや体を動かす体験的な活動」にし、より楽しさを味わってもらうよう工夫した。 チラシでコンサート等を積極的に案内し、地域住民の公民館利用を促す。	前年度試験的に始めた講座について、アンケートに基づいて改善。親子参加や、 性別の枠をなくすなど参加の間口を広げた。